

待降節第1主日の説教

金 大烈 神父 2009年11月29日(日)

《“希望”をおく馬小屋》

おはようございます。

“待降節”の意味は何でしょうか。言葉どおりに“イエス様が来られるのを待つ期間”の事ですね。それは何日間でしょうか。降誕祭の前の4週間です。4週間、私達はキリストが来られるのを待ちます。

何を待ちますか。キリストとは私達にとって何でしょうか。

日本語では“待ち望む”という言葉がありますよね。私が初めて日本語を勉強した時、“待ち望む”というのはどの様な意味か考えました。“待ちながら望む”のか、それよりも“望みながら待つ”方が良い表現ではないのか、即ち“望み待つ”がもっと分り易いのではないかと思いました。とにかく、その様な意味で“待ち望む”と言いますよね。

それでは、私達は何を望みながら待つのでしょうか。“望む”という言葉に既に含まれていますが、それは“希望”です。待降節は言葉通りに来られるイエス様を希望として懇切に待つ、恵みの時間です。

この待降節、皆様がどの様な気持でその期間を過ごすか分りませんが、とにかく私達は“希望であるキリスト”を待たなくてはなりません。私達は皆、色々な“痛み”を持っています。その痛みから来る“弱さ”を持っています。その弱さを乗り越えられる為には、イエス様が何よりも必要です。待ちましょう！希望であるイエス様を待つのがこの待降節の真の意味です。

この待降節を迎えて、今まで一生懸命に信仰生活をなされた方も、もっと努力して、希望と共にふさわしい信仰の道を歩まなければならない4週間です。

今日の第2朗読(テサロニケ3・12~4・2)で、この様に使徒パウロがおっしゃっています。

「兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願い、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいますが、どうか、その歩みを今後も更に続けてください」

お願い致します。今、祭壇には4本のろうソクがあり、その1本が灯されています。この4本のろうソクが全て灯される間、4週間の間に、「私が信仰生活を送る意味は“希望”である。“希望”の為に私達は信仰の生活を持っている」事、その希望は自分にとって何であるかをよく考え、よく黙想する期間であって欲しいと思います。そしてその4週間で、もっとふさわしい、神様が与えた自分らしい自分をつくる為に、この期間を頑張ってみましょう。その為に何が必要か、何をすべきかを考えて実践する4週間となっていたいだきたいと思います。

少し、1分か2分、皆様と一緒に時間を持ちたいと思います。隣に座っている人を意識しないで下さい。今、十字架の下に聖櫃が置かれています。それだけを眺めて下さい。周りの人たちを意識しないで下さい。2分間位集中して、「あなたを喜ばせる、そのことによって私は喜ばれる。この待降節を迎えてどのように過ごすのか」について祈って下さい。



黙想する

皆様、今までよりもっと祈って下さい。努力して下さい。そして今よりもっと優しい心で良い事を実践しようと努力して下さい。この2つの心、実践が1ヶ月の後、馬小屋で生まれるイエス様への素晴らしいプレゼントになると思います。

皆様に心の馬小屋が出来るように！

ありがとうございました。